

トスルモ 情況ニ應ジ直接支隊若ハ機同
負ニ對シ待津ス

第九條 本隊司令員ノ報告ハ 機隊長ヲ用ジ 國頭
支隊長ニ 文書若ハ 口頭ヲ以テ 為スル本
則トスルモ 緊急ノ要スル 場合ハ 直接
支隊長ニ 報告ス

第十條 本隊司令員、通信方法ハ 有線通信(軍用)
無線通信(軍用)ニ依リテ 本則トスルモ 情況(有
線通信(信託絶)ニ依リテ 所在無線ヲ利用
スルモ、トハ 事

最悪ノ場合ハ 徒歩若ハ 所在部隊ニ 移
轉シ 實施スルモ、トス
第十條 敵狀詳報、報告ニ付、ハ 別ニ示ス
(通信個別添、如シ)

第十條 相互連絡ニ付、ハ 機隊長ニ 示ス

第壹條 各構成員の任要に應じ各部隊連

絡及援助の要請を了す得

分由條 其の他ニ分隊長ヲ指シテ其ノ任要

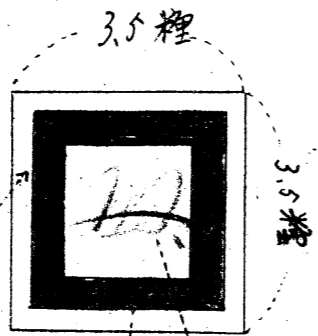
分隊長之ヲ決スルモノトス

分隊長 其ノ任要に應じ各構成員の任要に應じ各部隊連

之ヲ解任シ全隊員に之ヲ通知ス

支隊特務隊編成表

本部名	編成	兵	名	担任区域
本部	副隊長	幸地	新松	
	機員長	湖城	其章	
	副員	吉元	榮真	
		岸本	清	
		宮城	藤義	
		渡嘉敷	雅功	
		仲宗根	源和	
		宮城	秀田力	
		熊屋	忠現	
		宮里	金次郎	
名護支隊		玉城	賀清	
恩納支隊		津嘉山	朝信	

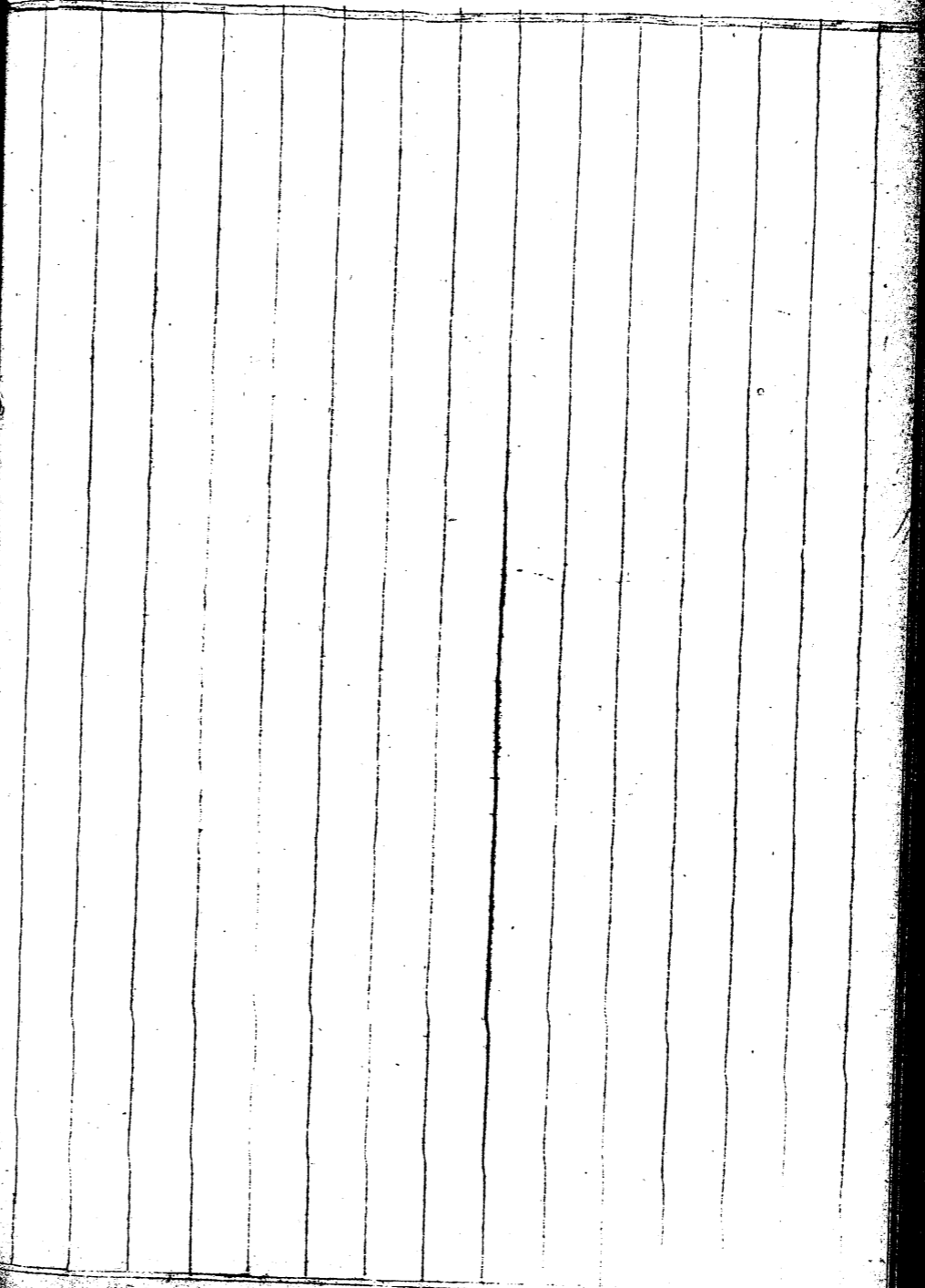


白地

赤字
部隊長署名



黒色 (國頭支隊ノ國ノ字ヲ模似トス)



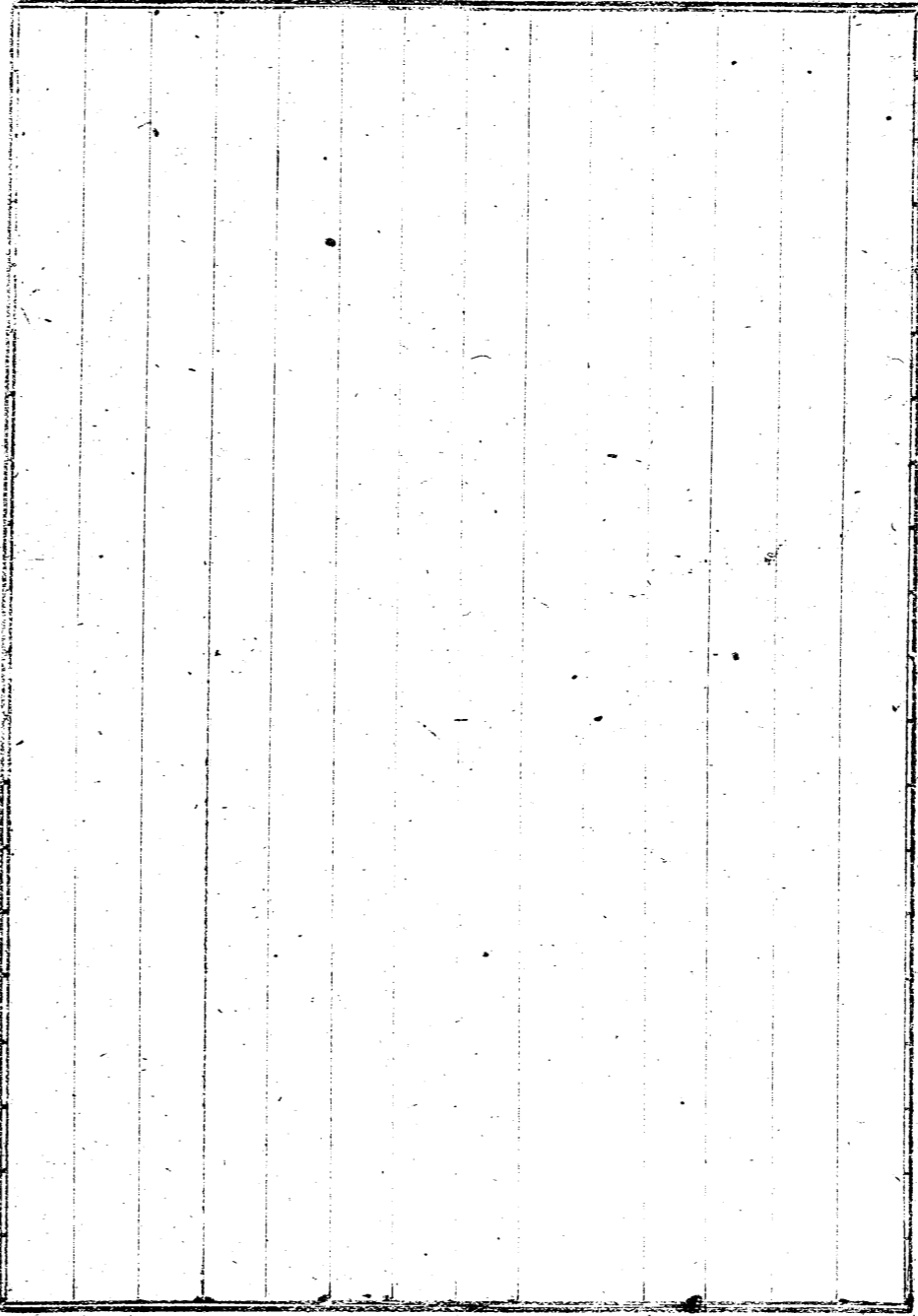
國頭支部長	金武支部長	久志支部長	本部支部長	今歸仁支部長	羽地支部長	大宜味支部長	東支部長	恩納支部長	名護支部長	副部長	本部長
山入端立健	宮城清宜	松永保市	仲宗根善光	比嘉榮祐	松田後雄	辺土名朝興	比嘉好吉	津嘉山朝信	右同	幸地新松	湖城其章
二	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	一
番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番

大宜味支部員	羽地支部員	今歸仁支部員	本部支部員	又志支部員	國頭支部員
金城 詳信	收志朝三郎	松田精吉	王城精喜	金城光正	宮城正幸
名簿二六	二七	二八	二九	三〇	三一

本部隊員	名護支部員	恩納支部員	東支部員	比嘉嘉浦春	比嘉嘉浦春	玉那覇仁王	津嘉山朝信	又吉康九郎	玉城賀清	宮重金次郎	照屋忠現	宮城秀男	仲宗根源和	渡嘉敷唯功	宮城藤義	岸本清	吉元榮真
名簿一三	二〇	二二	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八

0104

氏名	現住所	年齢	學歷	本職	社會上地位	兵役關係	備考
湖城其章	名護町字 名護七三四	三六	中學畢業	郡署本部長	郡署本部長	兵備 預備役	
吉元榮真	屋敷 名護六四	四五	中央農業	郡署本部長	郡署本部長	兵備 預備役	
岸本清	名護六四	三五	中央農業	郡署本部長	郡署本部長	兵備 預備役	
宮城藤義	名護六四	三五	中央農業	郡署本部長	郡署本部長	兵備 預備役	
渡嘉敷唯功	勝山四八	三二	高小卒	聯合分會常務理事	聯合分會常務理事	兵備 預備役	
仲宗根源和	屋敷一〇八五	五一	師範學校卒	聯合分會常務理事	聯合分會常務理事	兵備 預備役	
幸地新松	名護三八五	四八	東京醫大	醫師	醫師	兵備 預備役	
宮城秀男	名護三三	三四	高小卒	醫師	醫師	兵備 預備役	
照屋忠現	名護三八五	四〇	師範學校卒	醫師	醫師	兵備 預備役	
宮里全次郎	名護三八五	四一	師範學校卒	醫師	醫師	兵備 預備役	



比嘉彌	大宜味	那羽地	松田	今歸	北嘉	玉城
東村字 有銘	大宜味村 字津波三	那羽地村 字伊波五二	伊波五二 伊波五二	今歸仁村 字伊波五二	今歸仁村 字伊波五二	今歸仁村 字伊波五二
三	四	四	三	四	四	四
高小	高小	高小	高小	高小	高小	高小
村役場 吏員	村書記	高道業 保險業	高道業 保險業	高道業 保險業	高道業 保險業	高道業 保險業
村聖社 報道員	村聖社 報道員	村聖社 報道員	村聖社 報道員	村聖社 報道員	村聖社 報道員	村聖社 報道員

比嘉	東	渡	三那	恩	玉城	又吉
比嘉錦三	東村 字伊波五二	渡之地 字伊波五二	三那霸 字伊波五二	恩綱 字伊波五二	玉城賀清	又吉
四	三	四	四	四	五	五
高小	高小	高小	高小	高小	高小	高小
村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務
村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務
村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務	村役 會總務
兵 補	兵 補	兵 補	兵 補	兵 補	兵 補	兵 補
役	役	役	役	役	役	役

21 9.0 @
29. 5. 1. 14. 9.

0106

國頭村

山入端立健

山武武松

摘要

◎ 印ハ防衛召集待命員ナリ。

◎ 印ハ既ニ防衛召集ニ依リ入隊セル者復歸セシメラレタシ。

◎ 印ハ一應防衛召集ニテ解除後本部所ニ復歸セシメラレタシ。

大友屋資會國頭支那

氏名	現住所	年齢	學歷	本職	社會上地位	兵役關係
金城光正	今歸信村	三十一	中學卒業	金任青年隊指導員	村警壯團員	兵隊
仲宗根善光	本部町	三十九	中學卒業	本部町助役	所會議員 郡警壯團員	兵隊
新里清篤	瀬底	三十八	師範科	瀬底青年隊隊長	所警壯團員	兵隊
金城正幸	伊野	四十二	農林科	本部青年隊隊長	所警壯團員	兵隊
久志心村	久志村	三五	中學卒業	久志青年隊隊長	村警壯團員	兵隊
松永保市	汗間	四〇	師範科	久田國民學校校長	村警壯團員	兵隊
宮里國木	久志	四一	師範科	久田國民學校校長	村警壯團員	兵隊
金武村	金武村	四一	師範科	金武國民學校校長	村警壯團員	兵隊
宮城清宜	金武村	四一	師範科	金武國民學校校長	村警壯團員	兵隊
宜野座政章	金武村	四一	師範科	金武國民學校校長	村警壯團員	兵隊

0107

球七〇七一秋第二聯

國士隊運用要綱送付ノ件

昭和二十年三月十五日

球第七〇七一部隊長

國士隊本部長殿

首題ノ件別添ノ通リニ付送付ス

新大正十一年五月

長副連 者 港 連

科 中 三 點

宣傳資料

昭和十一年五月十五日

新大正十一年五月

國士隊本部部長

情勢、緊迫化ニ伴ヒ一般縣長ノ戰意ヲ昂揚

シ堅忍不拔ノ持久態勢ヲ整ヘ目的ヲ以テ

左記事項ニ留意シ上別添送付ノ資料ニ基キ

敵官民ニ對シ宣傳スベシ

左記事項

方針

敵反攻ノ熾烈化ト情勢ノ緊迫特ニ空襲

ノ激化ニ伴フ民心ノ不安動搖ヲ防止シ軍

官民ヲ勝ノ信心ヲ昂揚シ現下ノ苦難

ニ飽造耐忍ビ戰勝ノ一途ニ邁進スルニ氣

魄ヲ涵養ス

實施方法

本部ニ於テハ機関紙「翼壯報」
利用、又ハ講演會、座談會ニ於テハ反覆

宣傳ハ

2. 支部ニ於テハ各種ノ集會、若ハ個々面
談時ニ各隊員ヨリ反覆宣傳ス

3. 別添宣傳資料ヲ各隊員一部宛配布

三報告

本部ハ實施ノ状況ヲ各地域別ノ方法ニ當

テ人員、宣傳ノ効果ヲ三月末日ニ報告

ノリト

(註) 一添書ハ復寫ニ部作製、本部長ノ三送付

ニ宣傳資料ハ騰寫ニ部作製、各隊員

ハ頒布ス(目録セズ)

三宣傳資料ハ關係 軍報首班ヨリ送付ノ

後進宣傳資料也

ハ人的な資源欠乏ニ関スル件

2. 出血作ノ我ニ関スル宣傳ノ件

3. 「バカ」ノ將兵敢斗ニ関スル資料

ヲ機密添附ノト

011

球參情第三十二號

報道宣傳計畫及宣傳指針資料送付，件

昭和二十年三月三日

球第六天部隊報道班

首題件九記，通り送付ス 球作命乙第五號ニ関联利用

相成度 九記

昭和二十年三月報道宣傳計畫

米國人的損害ニ併テ召集問題ニ関スル宣傳，件

入の資源欠乏ニ関スル件

出血作戰ニ関スル宣傳，件

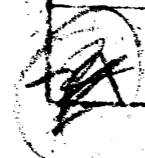
米軍ノ不軍紀ニ関スル件

米國內反戰平和思想ニ関スル件

ソバウ此將兵敢斗ニ関スル資料

敵側ノ對琉球論評ニ関スル件

(16)



昭和二十年三月報道宣傳計畫

球第天部隊

方敵反攻熾烈化ト情勢、緊迫、持ニ空襲、激化ニ併テ民心、不安動搖ヲ防止シ陸軍記念日ニ臨ミ愈々軍官民必勝、信念ヲ昂揚シ一入十殺、妻敵合言世ヲ反復宣傳シ現下、苦難ニ飽迄耐忍ビ戰勝ノ一途ニ邁進スル氣魄ヲ涵養ス

實施行事並要領

時期

行

事

要

領

上	<ul style="list-style-type: none"> 一 班長講演、為國頭出張 一 義勇隊結成激勵、言世某 一 新聞社支局長懇談會 	<p>講演二回 座談會一回 新聞發表</p>
旬	<ul style="list-style-type: none"> 一 陸軍記念日宣傳行事開始 一 軍關係檢閱班編成打合 	
中	<ul style="list-style-type: none"> 一 陸軍記念日行事繼續 	

旬	一 參謀長報道班員ト會見	
旬	一 報道班員防衛狀況視察	
旬	一 報道班員情報會議	每週定期
旬	二 班長時局講話發表	概テ每週若ハ隨時
旬	三 三ノス及劇映画上映(會議室)	隨時
旬	一 報下部隊ニ方針ニ基キ且ツ軍ニ於ケル行事ヲ参照シテ報道宣傳ヲ實施セシメ度	
考		

米國人的損害ニ伴フ召集問題ニ関スル宣傳ノ件

太平洋及歐洲兩戰線ニ於ケル米軍ノ人的損害ハ愈々増大シテアリテ米當局ハ之ヲ補強シ最モ苦慮シテ所ナリ 本國戰爭指導上ノ最大弱點ハ人的要素ノ枯渴ニシテ國民ノ最モ恐ル所モ又人的損耗尤マ以テ持此ト是ヲ指摘宣傳アリ度

- 右ニ関スル參考情報九ノ如シ
- 一 米國戰時動員局長官「ジエースバインズ」ハ一月二日長文ノ報告書ヲ議會ニ提出シ議會會が政府ニ對シ四ノ級(身体的、精神的、道德不合格者)男子ノ召集ヲ含ム廣汎ナル權限ヲ附與セントフヲ要求セリ 本要求ハ先般政府が輕度ノ身体缺陷ヲ有スル為徵集ヲ延期スルハ免除セテ運動選手ノ徵集問題ノ再檢討ヲ命ジタルト一聯ノ關係ニ處置スル(米戰時情報局 桑港放送)
- 二 歐洲、旅ラ歸ツタ許リノコネカト州選出下院議員「ケルアル」ハ一聯合軍ハ兵員ト資材ト不足ニヤリト言明シ人的資源問題ニ関シテハ四ノ級ノ召集ヲ提唱シテオルト語ツタ (桑港一月五日放送)
- 三 國民徵募局ハ職業ノ理由ニヨリ徵集ヲ延期セテキタ者体格ハ軍隊ノ標準以下デヤタ者及八萬五千名(オン)ノ十八才カラ三十七才迄ノ者ニ對テ即時召集ヲ命ジタ (桑港一月八日放送)

人的資源欠乏ニ関スル資料

囚人釋放軍隊

刑務署七〇〇囚人ヲ釋放シ軍隊ノ不足ヲ補フ (桑港二月十九日放送)

人的資源ノ不足ハ志氣ヲ低下セシムル

適時外征ノ將兵ノ交代、休養ハ米國ニ於テハ最モ必要ナリ然ルニ相續ク損害加ハル懸軍才里長大ニ補給路ノ為ニカ交代要員得難ク戰爭ノ長期化ト共、漸次禍根ヲ藏シテ殊ニ其最モ、ハ軍隊ノ志氣ヲ著ク低下シテ軍紀ノ瀆リ、抗命ノ暴行等各種犯罪ヲ構成シ遂ニ上下一致ノ團結ヲ破壞シ厭戰、反戰トナリ戰力低下ニ至ルベシ

三人的資源及戰時生産諸材料ノ不足ニ對處スル為戰時動員局ハ新タニ規則ヲ設ケ勞力不足、深刻ナ地方ニ於ケル工場、従業員數ヲ制限スルコトナリ違反者ニ對シテハ原料及燃料ノ供給ヲ停止スル尚民間兼用自動車、バイク、製造ハ三百萬本削減セリ又海務委員會ハ發表ニ依レバ一九四五年度最初六ヶ月ニ於ケル商船、運送ハ現在、高率生産水準ヲ以テ行ハルト

出血作戰ニ関スル宣傳ノ件

一 出血戰コソ敵米國ニ對スル最モ効果且痛烈ナル戰法ナリ即チ前大戰ニ於テ僅カニ二三十萬ノ米國兵ノ死傷ニ依リ騷擾ヲ呈シタル米國兵將シ今マ呂宋戰ニ始ト共ニ愈ニ活潑ナル出血ニ直面シ彼等ニトリ東亞ヘ侵入ガ如何ニ容易ナル血ノ代價ヲ要求スル所ナルカヲ知ラシメザルベカラズ之ガ為敵ノ局部的進出ニ介意スルコトナク一機ヲ以テ克ク一艦諸共ニ一ノ乘員ヲ屠ル特攻隊若クハ博陰無比ナル挺進斬込隊、活躍等ニ依リ敵兵ノ血最後ノ一滴ヲ絞り取ル迄粘リ抜ク國民的決意コソ必要ナリ

二 米國人口ハ昨年七月ニ於テ一億三千八百萬余ニシテ此ノ中十五才ヨリ六十四才迄ノ稼働人口約九千四百萬更ニ病人或ハ家庭従業者等實際働カセ得ル者ヲ除カバ正味戰爭ニ出動シ得ル人口約六千五百萬ト推定セラル而モ此ノ中ヨリ既ニ昨年十月現在五千三百三十萬(内女子一千六百萬)ヲ陸軍ニ動員シ又一千三百三十萬ヲ海軍ニ召集ス斯クテ軍産業兩部門ヲ通シテ、動員余力ハ男女合シテ百萬余ナリ

三才去ル一月八日、陸軍長官「ヌナソン」言明ニ依テ千二百三十萬ノ壯丁中ヨリ閣下
以來ノ米軍ノ損害ハ陸軍六十万九千七百九十六名海軍八萬七千七百八十八名計セテ
六萬四千五百八十四名ヲ出シ軍ノ勤員數ニ彫大ナル大穴ヲアケタリ之ニ加フルニヨ
リ「ムソン」ノ發表タルヤ戦死ハ死体ヲ確認サレタルモノミ戰病行方不明其他
ヲ除外シ極メテ内輪ノ發表ニシテ實際數ハ違カニ多數ニ上リアルモノト判断セル
ハ將ニ物量ノ鑑ヲツケ或程度迄生命ノ安全ガ保證ノ見込アル限リニ於テ米國
兵ハ相當ニ強キモ一度物量ノ鬼ヲ剝奪シテ肌ニ刀ヲ擬スルトキ意外ノ脆サヲ示ス
國民性ナルコトハ火ヲ見ルヨリモ明カナリ

米軍ノ不軍紀ニ関スル件

一、友樞軸軍總司令官「ライセンハート」ハ二十三日突然緊急布告ヲ以テ「ベルギー」
ニ作戦中ノ米陸軍第七十一鐵道大隊將校六名ノ逮捕ヲ命ズルト共ニ大隊
長「ウアルター・マリー」被免ヲ発表同大隊ニハ二月十二日ニモ十二名ノ兵士ガ閣下
引ニテ檢舉サレ軍法會議ガ二十槍カラ三十槍ノ重刑ヲ科セラレタ今後更ニ
多クノ閣下引將兵ガ檢舉サレルモノト見ラレル(二月二十三日UP電)

二、「ミシガン」州監獄當局ノ發表ニ依レバ「タバコ」州「ウイバー」ナル兵卒ハ加州「クバ」
ニ於テ將校ニ不服從攻撃シ將校ヲ侮辱シタル處ニ依リ軍紀第六十四号ニ觸
死刑ヲ宣告セラレタ(二月十九日桑港放送)

三、佛蘭西ヨリノ脱走兵四名ハ島ニテ捕ヘラレ目標下並禁中ナリ彼等ハ佛蘭西
於テ偽ノ命令ヲ勝手ニ發行シ兵員輸送船ニテ歸米シ「ワシントン」陸軍
廳令ニ巧ニ入り込ミ解除同紙ヲ入手シ以テ解除隊ヲ圍リシモノナリト云フ
右四名ハ原隊ニ復歸上軍法會議ノ處分ヲ受ケタリ

四、米「ロイセツ」紙ノ報道ニ依レバ米兵ノ脱走者ハ一萬八千ナリ同様米陸軍機關紙
「スター」紙「エント」紙「ストライプス」紙ハ米軍中ニ於ケル脱走兵ハ既ニ一萬八千ヲ數ヘ大
半ハ歐洲ノ占領地テ閣下引ヲ行ヒアリト報セリ(一月二十八日DNBストツホルム)
五、中部及南部高地ニハ二十前後ノ米軍脱走兵ガ居リ諸部落或前線
カニ遠ク離レタ地方ニ潛伏シテ井ル之等ノ多クハ食糧交換ニ依リ「伊太利市」
民カラ手ニ入レタ平服ヲ纏ツテ居ル

米國內ノ反戰平和思想ニ関スル件

元来一般米國民ハ生命ニ対スル恐怖心及ビ私生活ニ於ケル享樂ノ追求ヨリシテ自ニ戰
争ニ参加スルヲ希望セズ戰爭ノ國外ニ在リテ利益ト享樂トヲ得ニシトヲ希望ス
戰最近米國民ハ其有利ナル戦局ニ酔ヒ樂觀ノ跡敵ヒ難ク政府ハ極力之ヲ戒
メテラ尙大統領演説ニ於テ速ニ戰勝シ戰後ノ歸還兵其他ノ職業ノ保證
戰後國民生活ノ向上ノ再戰ヲ避ケル國際機構ノ設置等迅速ナル戰争ノ終結
及ビ戰後問題ニ言及セサルヘカラハ固ヨリ一面ノ國力ノ余裕ヲ示スト共ニ反面國民總
意ガ此等ヲ熱ホシアルヲ語ルモノナリ

然ルニ予期ニ反シ戰爭容易ニ終結スルヲ見ズトセバ其ノ失望モ亦大ナルコトニ反戰反
政府平和促進運動ノ境頭ヲ見ルコトハ極メテ明クナリ故ニ樞軸國トシテハ武
力戰ニ勝利ヲ得少クトモ之ヲ持久シテ絶望感ヲ抱カシムルコト及ビ割合ハ戰争
ナルコトヲ自覺セシメザルベカラズ

「ラバウル」ハ敢闘「億」最先頭「ラバウル」同胞

本下ノ補給路ガ断タレテ既二年余而モ時日ノ経過ト共ニ「ラバウル」ハツカリ根ヲ下シテ
精強ナ。萬將兵一人十殺ノ勅々タル開魂ト俟ツアルヲ持テ決戰態勢ヲ一度戰

勢ヲ轉移シ見シカ長大ノ敵補給路ノ背後ニ對スル重大ナ脅威カラ一歩ヲ進メ「ラバウル」
ノモツ太平洋ニ於ケル戰略的地位ト相俟ツテ終ニ敵ノ死命ヲ割セズハ置カナイト
些モ戰況ノ悲觀モ「ラバウル」ノ益々確乎タル必勝ノ信念ヲ堅持シテ關フ將兵ノ意
氣ト覺悟ヲ聞キ不滅祖國ニ打ヨス太平洋ノ騎波ヲ晚ミヤラ今裏敵一途ノ邁
進ヲシツテ一億國民就中皇土防衛ノ先驅タル此處南西諸島皇軍ノ強ク
銘感スベキトニコナレル コト「ラバウル」ノ部隊長ノ力強キ言葉ヲ紹介シテ全ク
補給連絡断タレ執拗ナル敵ノ宣傳謀略銃爆裏ト戰ヒテラック皇軍ノ真髓
ヲ發揮シテ「ラバウル」同胞ノ勞苦ヲ忍バウ

「敵裏滅ノ端緒ヲ「ラバウル」ヨリ開カン 個人モ民族モ興衰ノ界目ニ試練スル
経テ深サト強サヲ加ヘ眞ノ光輝ヲ發揮スル我々ノ當面シテ今日ノ苦
難コソ皇國日本ヲ永遠ニ生ズス唯一ノ要素デアリ「ラバウル」今日ノ決戰態
勢ハ何ニ依ツテ生サレタカ敵ノ猛烈擡撃ナル銃爆裏ニ暴サレテ衣食住ハ固
ヨリ有ニル困苦缺乏ヲ堪ヘ忍ビ瘡瘍ト病魔ヲ克服シテ年余ニ亘ツテ敢闘又敢
闘ヲ續ケタ將兵ノ血汗ノ結晶外ナラズ近代戰ハ補給戰デアルト云ヘルガ其ノ方式

少クトモコバウルニ関スル限リ訂正サレバズルマイコノ大望不返轉ノ決意ハ独リ
コバウルニ限ラレタ事デハナイ全戦線デ皇國ソノモノ姿デアラウ吾々此ノ様ナ戦況ニ三
モ悲觀スルニ及バナイガタルカナル島以來敵ノ所謂飛石作戰ハ三ノギヤサイハン
経テ今マ比島否皇土ノ門闕硫黄島ニ及ンデイル然シヨク地圖ヲ見ルト北太平洋ノ
廣ク正西ノ中敵テラレタ島ハ微々タルモノデアアルコバルトノ一角ニソノモシ即島ニモ
將又三ノギヤニ今尚我軍ガ嚴然タル地步ヲ占メテイル 戦勢一度轉換シ戦局主
動性ガ我ニ移ランカ之等要點ハ其間點在スル敵基地ヲ復シカレテアル歴史ガ四轉スル
様ニ戰爭ニ波ガカル物量ヲタム驕敵モ萬キコニ及ブ長艇ヲ補給路ノタメ比島敵
消耗補充カ思ノ様ニ行ワズ隨所ノ様想ヲ露出シテイル之ニ反シ
我ガ補給ハ内線作戰ノ戰畧的優位ニ立ツテ次々ト操出スル
ニ各個裏破ノ攻專ヲ加ヘテイル我ノ苦シイ時ハ敵モ吾以上ニ苦シ
之ハ不慮ノ鉄則デアアル大ナ物量ノ消耗ハ一應ナクモ敵ガ最モ怖ル
人的損耗ノ累積戰爭ノ長期化ノ戦争目的ノ曖昧サト相俟ツテ敵陣
管内ニ何ノ為ニ吾々ノ戰爭ヲシテイルデアルカノ疑問ヲ曠ク出シテイルガ
之ヲ取モ直サズ敵ノ苦悶ノ端緒ヲ表シテイル猛進專ニ依ツテ之ヲ抗戦

意志放棄迄進ツメネハナラナイ道ハ唯一前進アルニ三年前ノ十月八日吾
々ハ宣戰ノ大詔ヲ拜シ奉ツテ如何ナル試練モ苦難モ固ヨリ期シテ
蹴然起ケ上ツタデハナイカアノ氣魄アノ氣魄ヲ決戦ハ通スル道デ
アリ日本民族ノ変ラナイ道デアアル
攻メ切り殺シソシテ一人十殺コバウルヨリ敵專減ノ端緒ヲ作ルデアルト

敵側ノ對琉球論ニ関スル件

出所	月日	題目	内容
米週刊雜誌 タイムズ 六月二十六日	9/7	ニミッツ 台湾攻略	太平洋作戦進軍法トシテハニミッツハ台湾ニ對シテ攻東ヲ加ヘマックアーサー軍ハコミンゲナオ島ニ進攻スル作戦ト並行シ空軍部隊ハ日本軍ノ諸島嶼基地ニ爆東ヲ加ヘ艦隊ニ空軍ニ兵力補給活動ヲ封ス
時事解説者 ワイリアム ワインター	20/8	台湾占領 ノ價值	米軍ハ北又沿岸北部ニ台湾琉球列島ヲ占領シ是等ヲ基地トシテ約一千機ヲ以テテ日本産業都市ヲ間断ナク爆東スベシ
時事解説者 ワイリアム ワインター	25/8		1. 米軍ハ北又沿岸北部ニ台湾琉球列島ヲ占領シ是等ヲ基地トシテ約一千機ヲ以テテ日本産業都市ヲ間断ナク爆東スベシ 2. 而シテ日本ヲ屈伏セシムルニハ少クトモ一年ノ激斗ヲ要スベシ

Vertical text on the right side of the page, likely bleed-through or a marginal note.

『三ノバリッ 誌』 『ジョーセツ ローゼンバウグ』	太平洋方面 陸軍航空部 隊司令官野呂 『ミラード ハーモン』大將
$\frac{27}{8}$	$\frac{1}{9}$
台湾ノ價值	台湾ト日本 本土空襲
<p> 1. 日本ニ対スル北島及台湾ノ關係ト歐州大陸ニ對 スル英本土北阿ノ關係ニ等シ 2. 即チ北島及台湾ノ兵員及軍需品ヲ集 積シ得ルニ充テ分ナル地積ヲ有シ米海空軍 ハ日本本土及南方ノ海上交通ヲ遮断シ 日本産業地帯ヲ空襲シ得ベシ 又對日攻ニハ中間地帯ニテ是等ヲ心領 得ベシ 北支沿岸北阿台湾及琉球列島ヲ占領シ 千餘ニ及ブ空軍ヲ以テ日本ノ本土空襲ヲ行 フベシ 1. 軍事交通ハ北島作戰ノ聯合軍ノ日本々 土侵略容易ナラシムベキ大規模作戰中ノ 第一作戰ト見做シアリ 2. 作戰ノ順序トシテハ 第一北島侵入 第二マライ上陸 第三又那沿岸基地獲得 第四琉球列島ノ占領 </p>	<p> 1. 日本ニ對スル北島及台湾ノ關係ト歐州大陸 ニ對スル英本土北阿ノ關係ニ等シ 2. 即チ北島及台湾ノ兵員及軍需品ヲ集 積シ得ルニ充テ分ナル地積ヲ有シ米海空軍 ハ日本本土及南方ノ海上交通ヲ遮断シ日本 産業地帯ヲ空襲シ得ベシ 3. 尚對日攻中其地トシテ琉球ヲモ 占領シ得ベシ 1. 亦シキ北島攻戰ハ聯合軍ノ日本々土 進攻ヲ容易ナラシムベキモノニテ聯合軍 ハ第一北島第二マライ第三又那沿岸基 地第四琉球列島ノ占領ノ作戰順序ニ ヨリ日本々土ニ進行スベシ 右各作戰ハ今右数ヶ月以内ニ歐州方面 米英軍ガ東亞ニ轉用サレタル時安 施サルベク其ノ終了マデニ約キ年ノ 上ヲ要スベシ </p>

『ニューリパ ブロック』誌	参宣資 第三六二號
$\frac{1}{9}$	$\frac{5}{10}$
	太平洋方面 敵側論評 ニ関スル件

参宣言リ	米海兵隊 總司令官 「ワアンター グリフト」	米國聯合通 信軍府電
10/9	24/9	25/9
琉球占領説	本土攻取	作戰順序
<p>一尚対日攻取中間基盤として琉球ヲモ 占領シ得ヤン</p> <p>ニハルマラハ適當ナル大規模ノ作戦ヲ モ聯合軍ハハルマラヲヨリモ直接北島 乃至六日本々土近接諸島ヲ攻取スベシ</p>	<p>一太平洋ニ於テ米軍ハ今ヤ日本軍ノ内防 陣地タル北島又那大陸沿岸日本々土 及本土近接諸島ニ對シ決定的打取ヲ 與ヘ得ル戰略態勢ヲ確保セリ</p> <p>一軍事通ハ米比島作戦ハ聯合軍ノ日本 本土侵略ヲ容易ナラシムベキ大規模作 戦中ノ第一作戦ト見做シヤリ</p> <p>2. 作戰順序トシテハ</p> <p>第一北島侵入</p> <p>第二マライ上陸</p> <p>第三支那沿岸基地ノ獲得</p> <p>一竊奪琉球列島ヲ占領スル</p>	<p>ハルゼーハ琉球攻取ニ関シ考ラレバ疑問 ニ左ノ四点アリ</p> <p>一艦載機ニ依ル九州爆撃</p> <p>2. 支那海岸ノ近道ヲトラシガ為ニ威力使 察</p> <p>3. 日本艦隊ニ對スル組織的追索ノ開始</p> <p>4. 北島作戦開始ヲ為メ日本海空軍ヲ同方 面ニ牽制</p> <p>此レガ並ニシキ回答ハ独リ米軍司令部ノミ 知ル所ナルガ何レシヨ日本軍ハ總エル可 能性ニ對シテ防衛策ヲ考ヘサルバカラス</p> <p>「ハルゼー」ノ琉球攻取ニ関シ考ヘラレバキ意 義アリ</p> <p>一九州ニ對スル艦載機攻取ノ前兆</p> <p>一又那海岸ノ近道ヲトラシガ為ニ威力使察</p> <p>一八日本艦隊ニ對スル組織的追索ノ開始</p> <p>一北島作戦開始ヲ為メ日本海空軍カラ 同方面ニ牽制</p> <p>一日本海軍ハ短期ノ防衛戰確保シタメ本土 ニ最モ近キ海域於テ其ノ艦隊ヲ使用</p>

英 國 サニデータイムス	「ニューヨーク」 「ワールドトリビ ユーン」紙	米國聯合通 信社 軍府電
18/11	14/10	12/10
琉球	琉球	沖繩
<p>一日本海軍ハ短期ノ防衛戰確保シタメ本土 ニ最モ近キ海域於テ其ノ艦隊ヲ使用</p>	<p>「ハルゼー」ノ琉球攻取ニ関シ考ヘラレバキ意 義アリ</p> <p>一九州ニ對スル艦載機攻取ノ前兆</p> <p>一又那海岸ノ近道ヲトラシガ為ニ威力使察</p> <p>一八日本艦隊ニ對スル組織的追索ノ開始</p> <p>一北島作戦開始ヲ為メ日本海空軍カラ 同方面ニ牽制</p>	<p>ハルゼーハ琉球攻取ニ関シ考ラレバ疑問 ニ左ノ四点アリ</p> <p>一艦載機ニ依ル九州爆撃</p> <p>2. 支那海岸ノ近道ヲトラシガ為ニ威力使 察</p> <p>3. 日本艦隊ニ對スル組織的追索ノ開始</p> <p>4. 北島作戦開始ヲ為メ日本海空軍ヲ同方 面ニ牽制</p> <p>此レガ並ニシキ回答ハ独リ米軍司令部ノミ 知ル所ナルガ何レシヨ日本軍ハ總エル可 能性ニ對シテ防衛策ヲ考ヘサルバカラス</p> <p>「ハルゼー」ノ琉球攻取ニ関シ考ヘラレバキ意 義アリ</p> <p>一九州ニ對スル艦載機攻取ノ前兆</p> <p>一又那海岸ノ近道ヲトラシガ為ニ威力使察</p> <p>一八日本艦隊ニ對スル組織的追索ノ開始</p> <p>一北島作戦開始ヲ為メ日本海空軍カラ 同方面ニ牽制</p>

英 國 サデータイムス	18/11	琉 球	セントシヤリ 2. 日本ハバロ得ザル場合ハ北島ヲ抛棄ス ベキモ琉球列島及台湾ハ絶対ニ確保スシ 3. 台湾北島沖海戦ニ於テ日本艦隊ハ相互ニ 決定的打撃ヲ與ヘ得ザリシガ如シ 米陸軍主腦部ハマッカーサー軍ヲ援助スル メ近ク大規模ナル新攻勢開始ヲ示唆シ アリ右陸作戦ト北島北部台湾若クハ 琉球ニ對シテハ行ワレルモノト觀察スルナリ
米 國 ワシントン 放 送	18/11	台湾琉球	サイパン島ノ住民ハ何ヲカト言ハバ人里離レタ 琉球諸島アタリカラ渡ツテ來タ無智ナ農 民連テアリ愛國ノ熱情カラ言ツテモ恐ララ 日本々々出會フ住民程デナイト思ワレル ……吾人が現在ノ前進基地ヲ満足シナイ ハ勿論デアレガ米軍ハ小笠原及恐ララ琉球 線ニ日本ニ接近スルデアラウ
対日戰論評 ワシントン	25/11	日本々々空襲	北島作戦后ニ於テ米軍次期目標ニ関シテ ハ本旬ノ敵論評北島北部ハラワンレ島 台湾琉球等ヲ奪テ支那大陸侵攻説少キハ 注目ノ要アリ
	21/11	サイパン生存 者ノ現況ニ関 スル件	

ヨネーヨーク タイムス 軍事評論家 ワシントン ボールドゥタン	30/11	B29ニ依ル爆撃 ノ意 義	日本航空隊ノ抵抗強化セバ戰鬥機ヲ以テ 援護セシムル手段カトラル、答デアル即チ日本々々 ヨリ近接セル小笠原及琉球ニ基地ヲ推進セ シメテ長距離戰鬥機ヲ以テ爆撃機ヲ 掩護セシム
ワシントン	2/12	日本々々空襲説	……吾人が現在ノ前進基地ヲ満足 シナイハ勿論デアレ米軍ハ小笠原及恐ラ ク琉球ノ線ニ接近スルデアラウ マリヤナ基地ヨリスル日本々々戰略爆撃ハ太 平洋戰ニ新段階ヲ劃スルモノニシテ日本航 空隊ノ抵抗強化セバ戰鬥機ヲ以テ掩護 セシムルタメ左ノ如キ手段ヲ採ルベシ 日本ヨリ近接セル小笠原及琉球ニ基地ヲ 推進セシメ長距離戰鬥機ヲ以テ B29ヲ 掩護セシム
太平洋方面 敵側論評	8/12	本々襲撃基地	B29ト戰鬥機ノ密接ナル協同作戰

DUP

各
同
耕作要領花かん方針

田植時季調査件
昭和二十年三月十八日
國頭支隊長
期間 約一週間

作業

陸軍

米
重府U
記者P
カドヤース

10
12

比島六日方
大進攻作戦
豫突ナリ

1. 2. 3. 略

支那大陸ハ普通ノ状態ニアリテハ理想ナル進攻豫突ナルモ支那大陸上陸作戦大陸ニアル日本軍ニ側面攻撃ヲ受クル危険アルミナラス海上交通ハ日本ガ北前比島台湾琉球ヲ保持スル限リ不安定ナルヲ以テ軍事的ニ大陸上陸ニ遭遇スベシ